

1 【活動の趣旨】

全学年を対象にして、地域在住の書家である草川薫人先生から御指導いただき、書写作品づくりを行った。日本の伝統的な芸術である「書」に親しむ体験を通して、「書」の奥深さを感じ、「書」への興味や関心を深める機会とした。また、秋の展覧会などへの出展作品づくりの場とした。



【書の心得①】

2 【特徴的な活動内容】

草川先生から、「書」の作品づくりのポイントとして、筆の弾力性、墨量による効果的にじみとかすれ、リズムや筆勢などについて聞いた後、各自が画仙紙に向かって筆を動かした。筆づかいや作品を見ながら、草川先生から個別のコメントや指導をいただいた。最後はみんなの作品を見ながら鑑賞会を行った。



【書の心得②】

3 【実施に当たっての工夫】

草川先生に御指導いただく前に国語の授業で1～2時間練習した上で、最後の完成を目指して競書会に臨んだ。また、広めの教室で床にブルーシートを敷き、密接せず、ゆったりした状態で活動できるようにした。



【作品作り】

4 【事業の成果】

この競書会を通して、日本の伝統的な芸術である「書」への親しみが増し、またその奥深さも感じて「書」への興味や関心を深めることができた。自分の選んだ字句を作品にすることによって自己表現や自己実現の場ともなった。特に「作品づくりで大切なことは、1字目で失敗したと思っても最後まで諦めないことだ。最後まで心を込めた線は魅力的だし、その人の個性が出る。」という草川先生の格言は、「書」だけでなく様々な制作にも通じることであり、子どもたちの視野が広がった。

5 【事業実施上の課題】

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年のような活動が企画しにくく、子どもたちの体験や学習の場が減ってしまった。今後はこのような状況下でもできる活動を工夫していく必要がある。また日頃支えていただいている地域への貢献を子どもたちが実感できるような活動や、まちづくりセンターの講座活動などと連携を取りながら地域の人材の掘り起こしを進めたい。



【生徒作品】